

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2015年
12月号
クリスマス号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

幼子のことを忘れた私たち

主教 アンデレ 中村 豊

「とっておきのクリスマス」という、カリフォルニア州北部で実際に起こった物語を紹介します。

百ドル紙幣の奇跡

クリスマスまであと五日、コリンはハワイ出身の看護学生で、レストランで働き、お客さんのチップで学費や生活費を稼がねばならない毎日です。十分な蓄えがありませんので、折角のクリスマスも、家に帰ることは望めません。その日もレストランで働いていました。コリンが担当する五番テーブルにいる男性は一時間も座っているのに、注文をしない。おかしいのではないかと、他のアルバイトが注意します。そのテーブルに



「キリストの降誕」ホントホルスト作

行きますと、男性はようやく、「ナツチヨスと水」と言い、おつりはいらないと、一枚の紙幣

で、コリンは故郷へ帰り、家族との楽しい団らんのクリスマスをお過ごしすることができたのです。

を出しました。コリンはそれを見て驚いておりますと、「メリークリスマス」とだけ言って席を立ってしまいました。コリンが手にしたのは、百ドルだったのです。

自力の限界

私たちのほとんどは、三歳までの記憶を思い出すことができませんから、生まれたとき両親や家族の者たちから受けた様々な恩恵がどのようなものであったかが解りません。幼稚園に行く頃から、集団生活の必要性と共に、人生とは他者依存では無く、自分の力で切り拓くものであることを教えられて育ちました。従って、潜在能力開花のため、自分がどれだけ努力し、がんばってきたかについては、しっかりと覚えていては、人生が順調にいけばいくほど、他者から援助されて今の自分があることを忘れてしまうのです。コリンのように、自分の力ではどうしようもない運命に遭遇したとき、自分の非力を痛感するとともに、寂しさや悲しさにうちひしがれるかもしれませ

五年後、コリンはジョンという人と結婚しましたが、クリスマスの時期になると、「このクリスマスに、小さな幼子が生まれたことを思い出してください」といいながら、路上生活者に毛布などを配り歩いているのです。

神の憐れみ

二千年前、自分の力では生きてはいけない、無力な存在として、家畜小屋でイエスは生まれました。母マリアや父ヨセフの手厚い保護や、羊飼いの、三人の博士の祝福や贈り物によって、幼少時、エジプトに難民として過ごさなければならなかった困難を切り抜けることができました。成人した神の子イエスは、神の憐れみを説きました。「憐れみ」とは共に苦しみ、耐えることを意味します。幼子の時、無意識のなかで育まれた憐れみの心が何らかの拍子に目覚め、傷つき、痛みを負っている人のところへ行くように私たちを促し、その人たちと共に涙するのです。クリスマスの日、飼い葉桶の乳飲み子を通して神の憐れみが実現されました。この人のなかに真実の生き方を私たちは見出すのです。

(神戸教区主教・松陰女子学院院長)

神戸バイブルハウス主催 ポーランド巡礼 ヨハネ・パウロ二世の ふるさとへ

アグネス 宮永 公子

バイブルハウス主催の旅に参加させていただきました。

首都ワルシャワは緑がいっぱい、公園がいっぱい、ライラックとマダモアの花が満開の時、草原にはタンポポが咲き乱れ私達の目を楽しませてくれました。大学が八つあり、若者達で溢れていました。とても質素な服装で勉学に励んでいる様子が大変目につきました。

ポーランドの生家の公園、キューリー博物館等も見学しました。この美しい街もすべて破壊され多くの苦しみ悲しみの中にあった事を思い、このように再建されたワルシャワにびっくりしました。

池長大司教様、中村主教様が同行され毎日ポーランドの有名な教会でミサに与ることができ、感謝でした。どの教会も多くの人々であふれ一日に何度も



ヤスナグラ修道院

ミサが行われ、若い人達、子供の姿を多く目にしました。

カトリックの教会はどこも花にあふれ絢爛豪華で大きなパイプオルガンが美しい音色を奏でていました。どの教会にもヨハネ・パウロ二世の像が立ち教皇さまが、この国で愛され慕われ影響を与えていらつしやる事を実感致しました。又ヤスナグラ修道院では子供達の初聖餐の式が行われていました。小学生高学年の子供達、女の子はきれいなドレスを着て頭には花の飾りをつけ、男の子はスーツ姿で神父様から初聖餐を受けていた姿が可愛く感激しました。食事は昼夜ともコース料理でスープ、メイン、デザート、ケーキと、味も良く美味しく頂きました。昼も夜も必ずジャガイモが付きました。

旅の間一日だけ雨が降りました。アウシュビッツを訪れた時でした。ここも若い人であふれていました。ナチスの猛威が吹き荒れ、義足の山、くし、髪の毛が山と積まれた部屋、ガス室等々とても祈りなくしては見ることが出来ませんでした。戦後七十年と云いますが、奪われた命がどれほどあったでしょう

か。今、命の大切さを生かされている喜びを感謝しているのでしょうか？

アウシュビッツから近くビルゲナス教会で平和の祈りがささげられました。礼拝堂の大きな十字架は「現代のゴルゴダ」と呼ばれ主イエスさまが今も共に苦しんで下さっていることを心にとめました。その時、雨が上がり虹の橋がかかりびっくりしました。

ユダヤ人たちの義足

今回の旅は八〇名という多人数の旅でした。二台のバスで巡礼し祈りと共に始まり、祈りと共に帰ると云う本当に祈りの巡礼でした。ヨハネ・パ



ヨハネ・パウロ二世の出身教会

ウロ二世のふるさと「ポーランド」、教皇になられて初めてポーランドに帰られ、アウシュビッツを訪ね親しくしていたユダヤ人の友に祈りをささげた姿に、今もポーランドの人々にヨハネ・パウロ二世が愛されている事がよくわかりました。どの教会にも若いシスター、神父様が多くいらつしやる事にびっくり致しました。無事に日本に帰り、改めてポーランドの教会にあふれていた人々の祈りの姿に思いを寄せる毎日です。(神戸昇天教会信徒)



神戸教区宣教140年・聖句募集!!
 神戸教区宣教140年を記念するにふさわしい聖句を募集しています。

募集切 2016年2月2日(被献日)

募集方法 郵便・FAX・メールで 教区事務所までお送りください。

★ 皆さまのご応募をお待ちしています ★

平和は ほほえみから始まる

司祭マルコ平野 一郎

2015年9月29日(火)〜10月1日(木)にかけて、広島復活教会にて2015年管区人権セミナーが開催されました。

セミナーのテーマは「ヒロシマと人権」『主の平和』の実現のために〜でした。

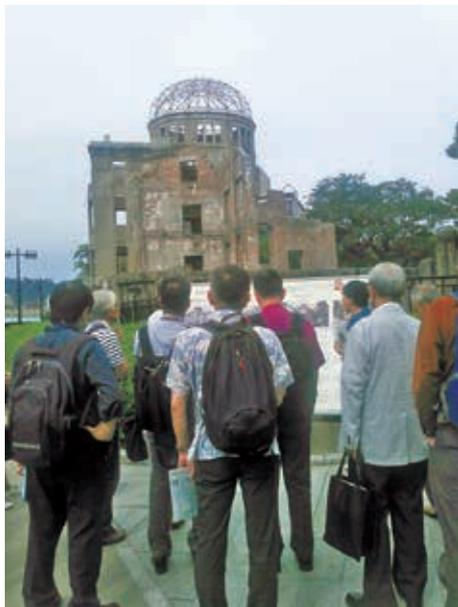
今回、広島で人権セミナーが開催されることになり、広島で人権を語るに際して、戦争、平和、原爆などをなくして人権を語ることはできません。

人権とは「人間が人間らしく生きるために生来持っている権利」(『大辞林』)で、具体的には「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」(『世界人権宣言』第一条)と記されています。

1945年8月6日、広島に原爆が落とされて、原爆の熱線、放射線、爆風によって、一瞬で約14万人の命が失われました。

さらに生き残った方々も、今もなお、被爆の後遺症で苦しみを抱えておられるという事は、本来持っている人の命をはじめ、自由、尊厳、権利も奪われたということになるでしょう。

事実、平和活動家の森瀧春子さんの基調講演での映像を通して見た核の被害と、今も回復していない惨状。広島原爆の語り



平和公園、大本営跡(広島城址)、広島通信病院の見学では、現存する建物の中に入って生々しい話を聞き、当時の映像・写真・資料を自分の目で見て、耳で聞いて体験し、さらなる原爆の悲しさ、戦争の愚かさ、筆舌しがたい悲しみ、平和の大切さなどが心の中に迫ってきました。

今回、私は平和について、特にセミナーのテーマの後半部分『主の平和』の実現のために〜という事に対して、日常生活の置かれた場で何ができるかと問いかけられました。

それについては、私にとってはマザー・テレサの『祈り』の「平和はほほえみから始まります。あなたがほほえみたくない人にも1日5回ほほえみましょう。神の光をともし、世の中で、またすべての人々の心の中で、あらゆる憎しみや権力愛を消しましょう」という言葉が参考になり、そのことを身近な所から実践し、日常での平和を築いていきたいと思いました。

またワールド・ワークの中の原爆資料館、原爆ドーム、

天使からの贈り物

マリア福島 薫

10月31日(土) 15時から神戸聖ミカエル大聖堂で『天使からの贈り物』と題されたパイプオルガン奉獻2周年コンサートが開催されました。

演奏は教区招聘オルガニストの井原由紀姉と神戸聖ミカエル大聖堂聖歌隊指導者で、ソプラノ歌手の喜多ゆり姉の予定でしたが、コンサート直前の28日(水)に井原姉が急性虫垂炎で手術を受け、やむなくコンサートは中止か?と危ぶまれていたところを桃山学院大学のオルガニストであられる松原晴美姉が、なんとコンサート前日の30日にお引き受けくださり、めでたく開催の運びとなりました。

プログラムはパッヘルベル、バッハといったバロック音楽の作品や、翌日が諸聖徒日ということもありフォーレの「レクイエム」など、しみじみと死者に思いをはせる曲、また、聖歌3曲を神々しいオルガンの演奏と歌声に導かれ、そこに集いし一同が歌うという多彩なものでした。

「今、どうしても歌いたい、歌

わずにはいられない」という衝動にも似た気持ちにさせられる奏楽というのはこういうものなのか?とお二人の演奏を拝聴して、とても刺激を受けました。また聖歌3曲を歌ったときは、自分が天使になって聖堂の上を高らかに飛びまわりながら歌っている。そんな高揚感を味わいました。

お二人はなんと今回が初顔合わせでの共演とのことでしたが、とてもそうは思えないほど、息の合った素晴らしい演奏でした。

(パイプオルガン委員・神戸聖ヘテロ教会信徒)



もう一つの「クリスマス休戦」

司祭 ペテロ 中原 康貴

第一次世界大戦中、イギリス軍とドイツ軍の間で起きた奇跡の『クリスマス休戦』は映画などにもなり、とても有名です。しかし、この第一次世界大戦中に起きた『クリスマス休戦』から300年以上もさかのぼった1566年のクリスマスにも奇跡の『クリスマス休戦』が実現していたことをご存じでしょうか。しかも、その『クリスマス休戦』は、日本の関西(畿内)で起こっていたのです。

それは織田信長が台頭する直前のこと、室町幕府の第14代将軍・足利義輝を殺した松永久秀と三好三人衆は、畿内の各地で主導権争いを繰り広げ、両者の争いは泥沼化していました。そんな中、『日本史』を書いた宣教師のルイス・フロイスが双方のクリスマスチャンに「敵味方なく、隣人として共にクリスマスミサを献げよう」と提案したのです。そして、畿内の荒廃を憂いた堺の会合衆がフロイスの呼びかけに協力を申し出、12月25日に堺の集会所でミサを献げることが決まりました。

争っている最中の武将たちが武器を持たずに堺の集会所に現れるかどうかは、誰にもわかりませんでした。しかし、クリスマス朝を迎えると、松永方と三好方、双方のクリスマスチャン武將約70人が集まりました。そして、そこに敵対している者が共に武器を持たずに集ったことを喜んだ堺の人々が加わって、「神様の前では敵も味方もない。武士も商人もない。互いに神の子である」として、クリスマスミサが献げられたのです。

第一次世界大戦中に起きたクリスマス休戦も、室町末期に起きたクリスマス休戦も、一時的な休戦となっただけで、終戦とまでは行きませんでした。しかし、戦いの後この『クリスマス休戦』を経験した人々はこう思ったことでしょう。「私たちはあの時、確かにドイツ皇帝でもイギリス国王でもなく、松永久秀でも三好三人衆でもなく、唯一の主になし、平和を実現していた。それは神の業であり、真実なものであった」と。

(神戸聖ペテロ教会司牧師・神戸国際大学非常勤チャプレン)



鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

10月25日(日)
ミカエル 村上 紳一郎
テレジア 亀井 寿恵
大洲聖公会

祝 聖 信

10月25日(日)
ドルカス 澁谷 咲子
姫路顕栄教会

祝 聖 婚

10月10日(土)
モニカ 岡崎 寛子
山内浩行
神戸昇天教会

ご 逝 去

10月5日(月)
ピリポ 岡田 昭三
神戸昇天教会
10月11日(日)
サムエル 笹部 隆
神戸昇天教会

10月15日(木)

エステル 大石 洋子
徳島インマヌエル教会
マリヤ 梅野 充慧
松江基督教会
10月20日(火)
エステル 伊藤 正子
姫路顕栄教会

教 籍 移 動

9月30日(水)
ルカ 宮田 裕三
東京聖マリア教会より
神戸聖ヨハネ教会へ

10月1日(木)

ミリアム 杉野 結子
三原聖ペテロ聖パウロ教会より
松江基督教会へ
10月2日(金)
マルタ 小山 いち子
徳山聖マリア教会より
清瀬聖母教会へ

10月25日(日)

ミカエル 溝口 悟士
福山諸聖徒教会より
日本基督教団鴨方教会へ

1月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2016年1月7日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 瀬山 公一

* 1月の記念逝去教役者 *

1日	司祭	ウィリアム	イ亨熊郎重一
3日	司祭	パウロ	レ井田金五郎
3日	司祭	ステパノ	グ辻横福島八品
5日	司道	ルデア	ヨシユア
6日	司道	ヨシユア	小林善一
10日	司道	オーガスチン	ジェシハネ
11日	司道	ステラ	ヨハネ
12日	司道	ヨハネ	ヨハネ
15日	司道	ヨハネ	ヨハネ
15日	司道	ヨハネ	ヨハネ
17日	司道	ヨハネ	ヨハネ
18日	司道	ヨハネ	ヨハネ
19日	司道	ヨハネ	ヨハネ
22日	司道	ヨハネ	ヨハネ
25日	司道	ヨハネ	ヨハネ
27日	司執	ヨハネ	ヨハネ
27日	司道	ヨハネ	ヨハネ

神戸伝道区

◎神戸昇天教会
10月13日(火) 婦人会野外例会。須磨離宮公園にて野外礼拝を行い、親睦を深めた。男性信徒を含めて10名参加。
10月25日(日) 礼拝後、ハロウィン祭を開催し、近隣の子供たちや伝道区内の方々など多くの来場者があり、盛況であった。

徳島伝道区

◎徳島聖テモテ教会
10月24日(土)、大人の和酒会 & 三木ライブ(ロックなワーシップソング)が行われた。約20名の老若男女が集い、まさに酔いしれた。

どうぞ、教会のクリスマスへお越しく下さい。

